

「政府情報システムにおける クラウドサービスの適切な利用に係る基本方針」 の改定概要

Digital Agency

2023年7月
クラウドTF

2022年秋（前回）の改定概要

- 旧方針（2018年6月に初版）は、クラウドファースト（先ずはクラウドの利用を検討する）だったが、前回改定（2022年秋）では**クラウドスマート**（クラウドを賢く適切に利用する）を目的に全面改定した。
- スマートとは**モダン技術**の利用であり「**マネージドサービス**」と「**laC** (Infrastructure as Code)」が中心。

2023年（今回）の改定概要

- 前回改定ではクラウドスマートを強く要請した。
クラウドスマートにはシステムのモダン化が必要だが、そのためにはシステムの刷新が必要となる。
- 政府情報システムにおいては、これまで予算の制約からアプリの改修を最小化しつつインフラをリプレースする刷新が一般的であり、BPRを含めたシステム全体の刷新は一般的でなかった。
- よって今回の改定では、BPRを含めた全体的な刷新の実施方法について「3.8 システム刷新の進め方」として追記した。

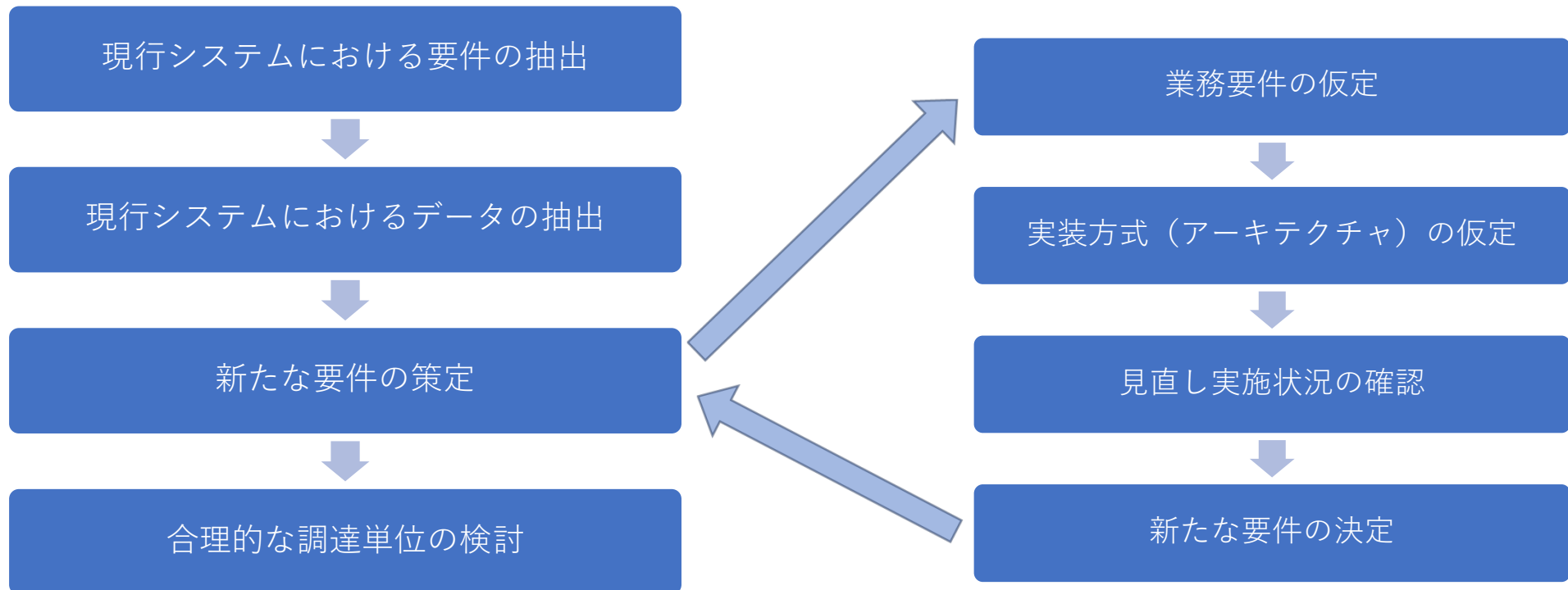
「3.8 システム刷新の進め方」より抜粋

1) システム刷新実施時の基本的な考え方

- －モダン化では技術の最新化と変化を追求すること
- －セキュアなインターネット接続を前提とすること
- －二段階移行は可能な限り避けること
- －大規模システムについては一括刷新を避けること
- －現行システムの機能や実装の単純継続を前提としないこと
- －業務観点の見直しとシステム観点の見直しの双方を実現すること
- －システムのスコープ（対象、範囲）と制度の見直しを行うこと
- －ライフサイクルコストを削減する観点から評価方法を工夫すること

「3.8 システム刷新の進め方」 (続き)

2) 刷新時のプロセス (要件定義工程)



「3.8 システム刷新の進め方」 (続き)

3) 刷新時のプロセス (設計開発・運用保守工程)

